



K-I-F-A Plaza

第8号

1990年12月15日発行
〈発行〉

鎌ヶ谷市国際交流協会

編集・広報部会

活動 報告

研修事業 語学講座

特別企画	Internationalで行こう⑤ その2	2・3面
写真特集	国際交流、わが家のこの一枚	4・5面
活動報告	部会ズーム・アップ。会員登場	6面
SAY, "young"	学生会員アンケート Part 2	7面
あReこRe	スペインへの誘い。ほか	8面

おとうさんのイチゴすばらしいよ

中国雲南省の農業技術員ファン・ヨウ チエンさん（右）は、十月から小金谷清さん（軽井沢二〇五三）のお宅へ農業実習に来ています。イチゴの栽培は初めてというファンさんは日本の農業技術をしっかりと身につけて帰ることでしよう。鎌ヶ谷の「土」が日中友好の絆（きずな）になるのはとても嬉しい話です。彼は小金谷さんを「おとうさん」と呼んで尊敬しています。



特別企画

Internationalで行こう！

⑤ 今、鎌ヶ谷の国際交流は その2

前回に引き続き、佐々木（会長）、荒井（派遣部会長）、岡本（研修部会長）、藤谷（交流部会長）の各氏に、姉妹都市、将来の展望等について話していただきました。（司会 広報部会 足立）

——姉妹都市提携について

司会 鎌ヶ谷市の姉妹都市提携については、プロジェクトチームが結成されて選考に入っています。勿論結論はチームの皆さんが出されるものですが、KIFAを運営してきた皆さんとして、この問題をどのように考えていらっしゃるのでしょうか？まず藤谷さんから話を聞きます。

藤谷 交流部会としては、現在ホームステイの受け入れがないので、一日も早く姉妹都市が決まるといいですね。姉妹都市ができれば、市民の方々の関心も深まるでしょう。個人的には、一つの国に関わるより、色々な国を知りたいという気持ちがあります。一つの市で三つ位の姉妹都市を持っているところもあるようですが、鎌ヶ谷では最初からは無理でしょう。一国だけとすると、付き合いを長くして、その国のことを色々勉強できるから、それはそれでいいと思います。国としては、どういう国を選ぶかということですね。私も行ったことがあるんですが、英語圏でもオーストラリア、ニュージーランドなんかは、米国とかなり違って、日本人にとって落ち着けるんです。いずれの国にせよ日本人に合う対象を選んで貰いたいと思います。対等に付き合える国がいいなあと思います。

心配なのは、姉妹都市ができた後、一般的に事務局の対応ですね。千葉市の姉妹都市のお手伝いをしたことがあるんですが、商社マン並みに語学の堪能な職員がいるんですよ。英語に堪能な職員を配置しないと、適切な対応は無理なんじゃないかと思います。

岡本 プロジェクトチームの一員としての立場から言いますと、このあいだ第一回の会議があったんですが、その時自己紹介を兼ねて、皆さんの姉妹都市に対する考えを聞いたんです。やはり英語が国際語なので英語圏の希望が多数でした。選考基準としては共通性があることと、言う方が多かったと思います。私は共通性がない方が息の長い交流ができるんじゃないか、という考えなのですから、私の考えを言わせて貰いました。

千葉県で提携した他の各市を見ても「提携はして見ましたが中だるみがあります」「尻つぼみです」と言うような感じのところが多いようです。提携しているので、無理やり何かをやらなくては、という市が増えているよう

ですね。まだ鎌ヶ谷市はこれからですから、希望がありますけれどね。他の市に関しては提携して、十年、十五年たっているところがある訳です。そこで中だるみが出る、ネックは何か？相手都市でも国により日本の経済力を当てにしているフシがあります。たとえば中国の場合、費用の負担が全部こっち持ちという交流もあるようです。それでは本当の交流ではないと思うんです。人と人との交流ですから、そのようなことにならないようしなければ、と思います。ですから行政サイドで進めるのは危険ですし、急ぐこともまた危険だと思います。調査その他、地道に取り組まないと、シッペ返しが来ますよね。その点を気をつけながら、プロジェクトチームの一員として頑張りたいと思っています。

——姉妹都市は市民主導で

司会 ある人の姉妹都市の分類によると、提携の型には3種類あると言うんですね。一つは首長が主役で主導して、市民は一向に無関心という型。昔はこの型が多かったようです。

次は市役所の要請ですが、やはり市民はワキ役という型。三番目は市民が主導して、これを行政が援助するという型で、千葉県でもぼつぼつ出始めているようですが、会長さんのご意見はいかがですか？

佐々木 その通り三番目の型で行くべきですね。提携のいきさつを調べたことがありますが、一、二番目の型が多いですね。それで結果的に失敗したり、中だるみがあったりするようです。そういう意味で、プロジェクトチームを作って民間主導で、役所が手助けするという形でないと、本物ではないと思うんで、今回のプロジェクトチームには期待しています。姉妹都市提携をすると、鎌ヶ谷の市民が関心を持つし、たとえば語学研修をして、さあどこへ行こうか、あそこは提携してるから行って見ようかと、一つの目標になる訳です。鎌ヶ谷の一般市民に関心が生まれることが、一番大事なんです。その意味では、やはり我々が民間主導で、慎重に長く時間をかけて、相手を選ぶことが必要でしょう。

荒井 たしかに市民の立場で考えれば、姉妹都市提携は市民の共通問題になり得るし良いと思いますが、それで変なたとえですが、結婚みたいなものじゃないですか。そろそろ年頃だからと、あちこちにラブコールを送って、

この辺でいいかなと、妥協して決めてしまうのではなく、意識的にでなく、この人と当分連れ添おうかという、インスピレーションと言うか、感じるものがなければと思います。片思いではだめだろうし、また中だるみもあるだろうし。中だるみが出た時、それを打破できる要因があればいいと思います。岡本さんが言われたように、共通的でないものもあって、絶えず新鮮なものが発掘できるようにであれば、いいと思います。

——KIFA事業の将来の展望

司会 まだ色々伺いたいのですが、時間の都合もありますので、次のテーマに移りたいとおもいます。KIFAの事業の将来の展望についてご意見を伺いたのですが。

佐々木 当たり前のことを当たり前にやる事。ボランティア活動なので、好きになってもらって自発的に事業に参加してもらうことが、事業の拡大につながるんじゃないですか。具体的にこうだと言えません。お互いの信頼をつちかうことが大切でしょう。

岡本 そうですね。やはり原点に帰ることじゃないんですか。

今後のKIFAの活動について言えば、今やっている事業がすべてではないし、姉妹都市ができれば、また違った事業が生まれるんじゃないですか。それだけでなく、藤谷さんがおっしゃったように、KIFAを通して外国人と交流する機会があるのですから、そういう外国の人を交えて、例えば難民問題とか話しあう、ということができれば良いと思います。そういう活動ができれば、納得の行くKIFAの事業が広がりますし、将来の展望もひらけるという気がします。ただうちだけで語学研修なり、文化交流なり、派遣をするのではなく、何か違ったものが生まれる、そんな気がしますね。

藤谷 そうして行きたいですね。ただ、今のところはまだ2年4ヶ月で、導入の部分ですから、見栄えがよいものでとっかかっていますが、長くやって行く上には足元を見つめることが。

佐々木 それと、僕が思うには、これから中心になっていく人は、我々みたいに仕事を持っているものでなく、もっとフリーな立場で、文化交流でもスポーツでも時間的に余裕があって、外国人と一緒にやってゆかれる人が必要ではないですか。各部会の中心の若い人たちが中樞

になってゆく、ということが将来外国人との交流にプラスになると思うんですね。

岡本 けれど一面仕事をしているからこそ、関われるということもあるのではないですか。日米少年野球に関わっている人が知人にいますが、ニューヨーク市と東京都で毎年交換試合をやっているんです。その方はニューヨークで事業をやっているんです。ニューヨークで仕事をしているのだから、地元と交流したいと言うんです。事業をスタートした時、多分大変だったと思うんですよ。けれども20年続いて、昨年ニューヨーク市と東京都から表彰されたんです。要はその人の意識の問題ではないでしょうか。

佐々木 僕らも時間があればスポーツでも何でもやりたいと思います。スポーツや文化は人類共通のもので

から、そういうものが時間があってできればいいなあと思いますよ。

藤谷 今後も日本文化や日常生活の紹介をしてゆきたいと思います。日本が上だというわけでもありませんが、経済も伸びたことだし、私もインドネシア難民の会に入っているんですが、KIFAで

やるには制約もあると思うんですけど、将来的には色々外国の方のお手伝いができたらいいと思います。

また具体的にはサロンが欲しいですね。発足当時からKIFAの憩いの場が欲しいと思っていました。そこへゆけば何時もパンフレットなりが用意してあって、情報交換ができるし、外国人がそこへいってもKIFAの内容を知るものが揃っている。そういう場が欲しいですね。

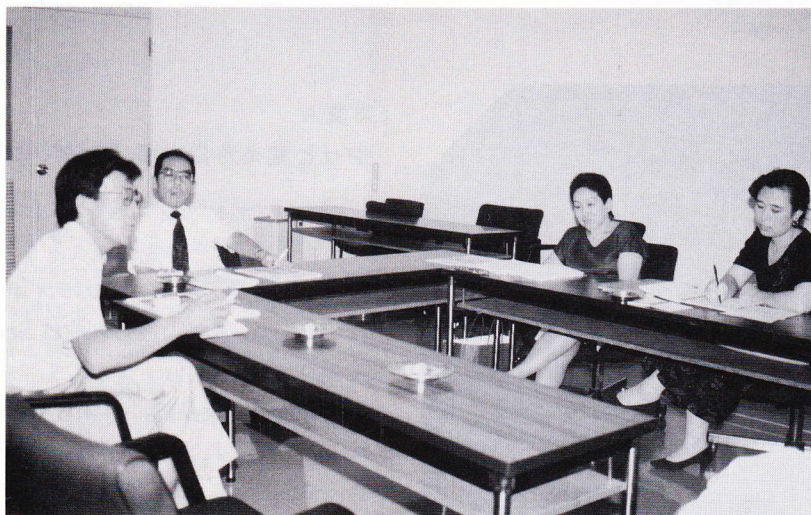
佐々木 そうですね、やはり場所が欲しいですね。

司会 色々なお話を聞かせて戴きました。最後に会長から一言お願いします。

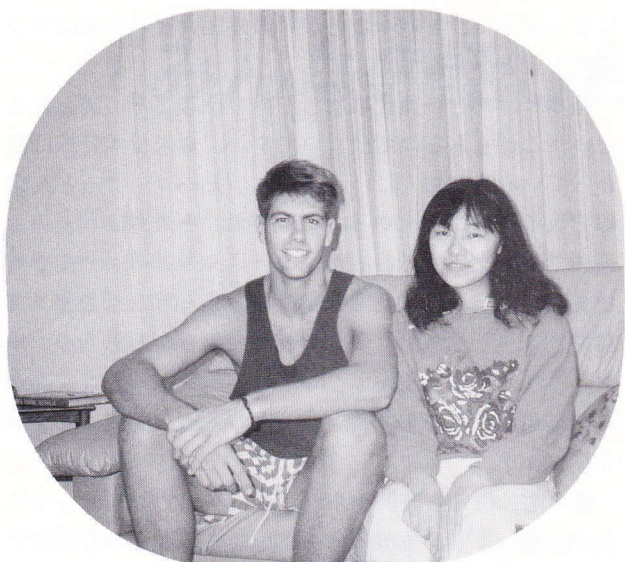
佐々木 2年4ヶ月皆さんのお陰で事業を進めてまいりました。今後組織を強化し、新鮮な事業を取り入れ、英知を結集して「鎌ヶ谷にKIFAあり」を目標として、早い機会に意識の改革を計りたいと思います。

司会 お忙しいところどうも有難うございました。

この座談会は、8月2日市役所会議室で行なわれたものです。



左から荒井、佐々木、岡本、藤谷の各氏



- A -



- B -



- C -

国際交流、わが

外国へ行った時、その
外国のお客さんを招いた時、
催し物で一緒になった外国の
考え方。とにかく、国際交流
その一瞬を撮った、わが家
ていただきました。

写真A

やっと覚えた日本語「ヤター」

1990年3月に、オーストラリアのシドニーで2週間ホームステイ。ステイ先はホストファミリーが5人家族で、その他に留学生やホームステイ中の人が3人いて大にぎわいでした。写真の彼の名前は Scott。19才の NSW 州立大学の学生です。

彼は茶道や折り紙に興味を示し、おみやげの人形焼も気に入ってくれました。そして、彼が唯一話せる日本語は「やったー」ではなく「やたー」でした。

(提供 松本美穂さん)

写真B

Oh, delicious とギットラー夫人

広島に転勤していた時、探鳥会で知り合ったギットラー夫人を小学校の米飯給食に誘った。子供達と一緒にの食事は彼女にとって予想以上に嬉しかったらしい。“Oh, delicious”を連発していた。彼女は自然保護について鋭い感覚の持ち主だった。

(提供 足立昭治さん)

写真C

国際色豊かな持ち回りパーティー

1984年、ニューヨークに住んでいました。近所の奥さん方と、持ち回りホームパーティーを月1回開くことにしました。住民の多様さを反映して、メンバーはまことに多彩な国籍、ネイバフッドクラブと名付けました。

左から、メキシコ、日本(岡本さん)、イタリア、中国、ハンガリー、中国、ノルウェー、中国の人たち。

(提供 岡本靖子さん)

家のこの一枚

人の温かい対応。自宅へ
家族ぐるみの楽しい交歓。
人の思いがけない物の見方、
は面白いもの。そのひと時、
にとっておきの一枚を提供し



- D -

写真D

愛しいマザーの口ぐせは「Try English」

写真に写っているのはホストマザーのベレン。ホームステイした家はホストマザーともう一人日本からステイに来た女の子の3人だけでした。この写真は私がオーストラリアに着いた日の夜にとったもので、前夜飛行機で眠れなかった私はとても眠かった。ベレンは料理が上手で英語の発音はオーストラリアなまり…… eight を「アイト」と言い rain は「ライン」。はじめの頃全然わからなくて大変でしたが、私が消極的になると「Try English」と励ましてくれた、やさしいマザーでした。

(提供 若狭 桜さん)



- E -

写真E

子供はいつでも親善大使

1987年8月、千葉県青少年指導者洋上研修に参加。渡航地は中国。上海、蘇州、無錫とまわりました。

この写真は、上海の路上で遊んでいた子供達と一緒にパチリ。最初は逃げ腰だった子供達も、それでも興味津々で近寄って来て、私達につかまってしまったというわけ。でも人なつこい笑顔がとても印象的でした。

(提供 後関まり子さん)

写真F

我々も頑張るぞ 外国語!!

私はハングル研究会と言うハングルを勉強する会の一員です。今年の初夏仲間と共に韓国を訪問しました。目的は観光と日本でハングルを教えてくれた、留学生だった朴先生に会う事でした。先生は現在韓国で日本語を教えています。先生の紹介で、日本語学生とハングルと日本語で討論しましたが、彼等の日本語のうまさにびっくりしました。右から二番目が私、中央が先生、左二人が日本語の学生です。

(提供 高橋康夫さん)



- F -

みんなの話し合いが発展の源泉

研修部会

9月から始まった語学研修はどの講座も大変な盛況です。3年目に入って、会員からも市民からも講座の貴重さが十分に認められた結果といえましょう。去る9月9日の合同開講式は出席者が予定数を越え、椅子が足りなくて嬉しい悲鳴をあげたことから、このことが実証されます。今回は、その原動力となった研修部会にズーム・アップしてみました。

下記の表のように、今年度は講座数を多くしました。また夜の部を増やして勤めの人を受講しやすくしました。英語会話に上級を新設し、全体のレベルアップを図りました。これらの点が1年目、2年目以上の好評をもたらした原因であることは明らかであります。

「みんなで、とことん話し合って、知恵を出しつくしたのがよかったのでしょう。とにかく研修部会の皆さんはよく集まってくださいます。あの和気あいあいの雰囲気が研修事業の発展の源泉になっているのですね」と岡本部長は話しています。



▲盛況だった合同開講式

【講座名】	【講師】	【会場】	【曜日・時間】
中国語会話(夜)	金子 夏実さん	中央公民館	火曜 7:30～ 9:00
英語会話(夜)上級	スティーヴン・バークさん	くぬぎ山コミュニティセンター	火曜 7:30～ 9:00
英語会話(午前)初級	スーザン・大友さん	南部公民館	水曜10:00～11:30
英語会話(夜)初級	ジャネット・平野さん	北部公民館	木曜 7:30～ 9:00
英語会話(午前)初級	ジャネット・平野さん	三橋記念館	金曜10:00～11:30
英語会話(夜)中級	エモリー・クリスタさん	東部公民館	金曜 7:30～ 9:00

会員登場・大網将司さん



今回の会員登場は高校1年生、交流部会で大活躍の大網将司(おおあみ まさし)さんです。

大網さんは現在、千葉英和高等学校英語科に通学していますが、KIFAの発足以来の会員です。広報かまがやで、国際交流協会ができたのを知り、早速入会の手続きをしました。中学2年生の時です。

1 昨年の第1回パーティーに参加した時、よく知っている人が交流部会で熱心に活動していました。その人に

勧められて交流部会に入りました。

もともと世界中に友達をつくるのが夢という大網さんは交流部会の仕事がうってつけ。高校の野球部で練習が忙しい中、いろいろな行事の手伝いを積極的にやっています。昨年のパーティーではスコットランドのモリスンさんのバグ・パイプの演奏が強く印象に残ってイギリスに行ってみたい気持ちになったそうです。

“世界中に友達を”の最初の一人として、最近カナダに友人ができたそうです。同じ高校生で、今夏日本へ来たので二度会って交流を深めたと嬉しそうに話してくれました。来年は学校の旅行でアメリカのオレゴンへ行けると胸をふくらませています。外国の友人も、年々増えていくことでしょう。大網さんが今、一番の趣味としているのはロックを聴くこと。音楽を通して世界の若人と交流してみたいと願っています。

世界を駆け巡るツアーコンダクターが将来の希望だという大網さん。その夢がかなえられるように、そしてKIFAでの活動が夢実現のプラスになるよう——会員みんなで期待していますよ。

聞いて!

学生のいいぶん Part2

～学生会員アンケート集計結果報告～

前号に掲載しました学生会員アンケート集計結果報告 Part1はいかがでしたか。今回はその続編です。

図1は、現在、学習中の語学のうちわけを示しています。圧倒的に英語が多く、次いでフランス語、ドイツ語となっています。2ヶ国語以上学習中と答えた人は、専門学校生、短大生、大学生に多くいました。が、高校生の中になった1人だけ、英語とフランス語を学習中と答えた人がいました。す・ご・い!

(図1) 現在学習中の語学

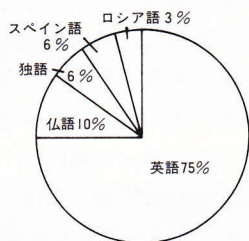
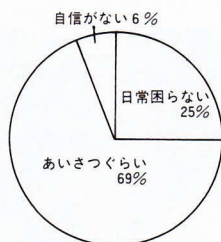


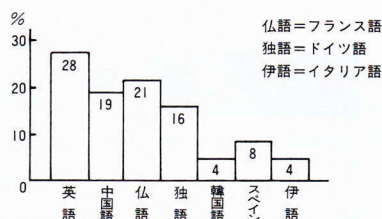
図2は、英会話の実力の程度を示したものです。あいさつ程度と答えた人が約7割を占めています。日常困らない程度と答える人がもっと多いのでは?と予想していたので、ちょっと意外な結果でした。ですが、この質問は答えにくいものだったと思います。実際に外国人と話す機会がなかったり、また話したことがある人でも、自分自身を評価するのは難しいことでしょうから。

(図2) 英会話の実力



次に、これから学習したい語学のうちわけを表したものが図3です。英語は、現在学習中でも、さらに語学力を高めたいと思っている人が多いようです。フランス語、中国語は学年を問わず人気がありました。中国は、日本に近く、歴史的にも深い関わりがあるからでしょうか。あ、そういえば、東京ディズニーランドのアトラクション等の注意書きの看板が、どこの国の言葉で書かれているか、皆さんご存じですか?

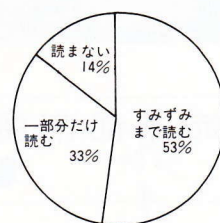
(図3) 今後学習したい語学



上から順に、日本語、英語、中国語となっているんですよ。中国語にチャレンジして、看板を読めば、待ち時間もたいくつにならないのでは?

図4は、KIFA Plazaをどこまで読んでくれているかということを表しています。隅々まで読んでくれている人が半数以上もいて、感激です!が、反面、全く読まない人が14%でした。魅力が足りないのかな?ちょっと残念です。

(図4) KIFA Plazaの熟読状況



最後に、KIFAに対する意見や要望をいろいろ書いてもらいました。寄せられた意見をまとめて、いくつか紹介しますと、特に多かったのが「KIFAの活動があまり活発ではないようなので、もっとイベントを増やしてほしい」という内容のものでした。また「KIFAの会員を増やすために、一般の人でも参加できる場を用意する」「国際交流」と、華やかなイメージのわりに地味なので、一般の人でも参加できる会にしたら……と、手厳しい意見もありました。その他に「鎌ヶ谷市内在住の外国人と市民1人1人の交流のかけ橋となるような会に」「文化交流以外に、第3世界

みんなの



えねるぎに



や、激動する国々の現状の紹介や協力といった事業にも手を広げていけるとよい」「早く姉妹都市を作り、交流したい」とい

う意見がありました。

KIFAは発足3年目で、未熟な部分はまだありますが、未熟だからこそ、これからチャレンジしていく事がたくさんあります。これらの意見を参考とし、今後の活動に反映させていくためには、若いパワーが必要になるでしょう。皆さんの積極的な参加を期待しています。それから、忙しい中、アンケートに答えてくれた方、どうもありがとうございました。

わたしたちもKIFAの事業に協力しています

電気工事・水道衛生工事

大幸設備(有)

西佐津間1-7 ☎45-0140(代)

木造注文住宅

増改築・鉄骨工事等設計・施工住まいに関するご相談なら何でも応じます。
手応えある住まいづくりをめざす



城山建設株式会社

千葉県知事許可般60第14967号
鎌ヶ谷市東道野辺2丁目10番36号(鎌ヶ谷電話局前)
シロモツ イイオートサン

☎(0474)46-1103(代)



カノキ-1

南初富5-9-38 ☎44-4355

K I F A 市民夏まつりに参加！

去る8月25日に貝柄山公園にて開催された市民夏まつりに、K I F Aのピーアールに参加しました。暑い中、お手伝いして下さったスタッフの熱意が通じ新しいK I F Aの仲間が17名増えました。

姉妹都市調査！！
着々と進行中

Sister City //

7月に発足した、鎌ヶ谷市国際交流協会姉妹都市調査プロジェクトチームは、現在、市の広報を通じて意見募集をおこなったり、市内各団体へのアンケート調査を実施したりと会員の皆さんはもちろん、より多くの市民の皆さんの意見を参考とさせていただきながら調査研究を精力的に進めています。

市民の皆さんからお寄せいただいた姉妹都市提携候補については、アジア・北アメリカ・オセアニア地域の都市が多く見受けられました。このことは、1989年に鎌ヶ谷市が実施した「まちづくりファミリーアンケート」の「世界の中でどの地域の国々に最も関心を持っていますか？」の回答結果と同様の傾向がうかがわれます。

また、市内各団体へのアンケート結果からは、次のような傾向がうかがわれました。

- ・ 海外との交流は、過去から現在までのところ実施されていない団体が多いようです。
- ・ 姉妹都市提携に限らず、海外との交流に対する関心は高いようです。
- ・ 姉妹都市提携後に想定される交流活動については、各団体ごとに独自性あふれるものも多く見受けられます。

プロジェクトチームでは、これらの意見を踏まえて多くの市民の皆さんに喜ばれる姉妹都市提携実現にむけて頑張ってまいりたいと考えております。

ご意見をお寄せくださいました皆さんおよびアンケートにご協力いただきました市内各団体の皆さんに紙面をお借りしてお礼申し上げます。

スペインへの誘い

次のオリンピックの開催国、スペインへの関心がこのところ高まっています。交流部会では9月16日南部公民館と共催で「スペインへの誘い(いざな)い」という料理と講演の一日を持ちました。

講師は流通経済大学社会学部助教授の関哲行さん。関さんはスペイン留学が長く、当日は料理と講演の両方の講師をしてくださいました。

南部公民館の料理実習室で「バエリア」というスペイン料理を作り、でき上がった料理を学習室に運んでスペイン産のワインを傾けながら講師のお話を聞くという凝った趣向。

「バエリア」とは、魚貝類とサフラン入りの炊き込みごはん、ワインに程よく合って参加者は、「料理も文化、酒も文化」と一遍に文化交流を果した気分になってしまいました。



▲関講師を中心に「バエリア」作り

プラザの泉

Service is giving up your own pleasure or convenience to lend a hand to others who need it. (BADEN POWELL)

奉仕とは自分自身の楽しみや都合を犠牲にして、助けを必要とする人に手を差し伸べることである。

編集後記

本号がK I F A plaza 1990年の最終号です。

ベルリンの壁が崩れたと思ったら、イラクのクエート進攻があり、国際平和協力の在り方をめぐって議論続出。かと思うと、政府の偉いさんの人種差別発言で、海外からの非難の報道等、技術の進歩や経済の発展で、外国がますます近くなり、私たちの生活に直接かわることが多くなっています。国際交流とは、外国との善意のおつきあいだというだけでは、済まない時代になって行くようです。これからも日本が他の国といかにかわって行けばよいのか、皆さんと考えて行きたいと思っています。(T)